

生涯学習・社会教育関係職員研修講座【中南地区研修】

令和6年7月24日(水)13:30～15:30 黒石公民館 受講者38名

1 内容

【テーマ】「地域と防災」～誰一人取り残さない地域防災～

【講師】一般社団法人 男女共同参画地域みらいねっと

代表理事 おさない 小山内 せきこ 世喜子 氏



【経歴】

東日本大震災以降、「防災と男女共同参画」をテーマに「多様性配慮の避難所運営訓練」、「地域防災人材育成」、「若年層へのジェンダー視点を取り入れた防災教育」、「防災ネットワークづくり」などに取り組み、市民・若年層・行政職員などのべ30,000人以上を対象に講座を実施している。また、参加者の主体性を尊重した「誰一人取り残さない地域づくり」にも貢献しており、第5回ジャパンSDGsアワードにて「特別賞」を受賞するなど、多数のSDGs関係の賞を受けている。現在、国（内閣府、文部科学省）の有識者会議委員も務めており、地方を元気にする意見等の発信も行っている。

【講義要旨】

- 現在、地域防災の基盤となっている自治会・町内会などは、担い手の高齢化や組織率の低下などによって硬直化し、弱体化しつつあり、限界が見えてきています。そのため、将来の地域防災を支える担い手対象の防災教育の実施が必要です。
- 防災教育の実施に向けて、避難所運営に焦点を当てた理由としては、「災害関連死」を減らしたいということと、「ジェンダーの視点からみた避難所等の課題」を解決したいという点が挙げられます。
※ジェンダーとは、社会的・文化的に形成された性差概念のこと
- 災害関連死をなくすためには、避難生活の環境整備と地域住民やボランティアの被災者の困りごとや変化に、「気づく力」、「寄り添う力」、「被災者とともに取り組む姿勢」が大切です。
- ジェンダーの視点からみた避難所等の課題は、平常時の社会の課題が顕在化します。平常時から、ジェンダー平等・多様性のある地域づくりに努めましょう。

2 受講者の感想

- ・ジェンダー視点を取り入れた防災活動について考えたことがなかったので、とても参考になり、必要性を感じました。
- ・災害が発生する前から、課題等を考えておくことが必要だと分かりました。自分の住んでいる地域を把握しておくことが大事だと思いました。
- ・実際に支援活動を数多く経験されたことに基づく内容で、その時に求められる事柄、特に女性が抱く困り感を減らす考え方、手段について知ることができました。